

抗生物質への耐性について（ファクトシート）

2017年11月 WHO（原文[英語]へのリンク）

要点

- 抗生物質への耐性は、世界の人々の健康、食べ物の安全、今日の生活の向上に対する最大の脅威のひとつです。
- 抗生物質への耐性は、誰にでも、どの年齢層にも、どこの国でも発生します。
- 抗生物質への耐性は自然に発生しますが、人や動物における抗生物質の誤用が発生を助長します。
- 肺炎、結核、淋病、サルモネラなどの感染症患者が増加しており、これらの治療に用いられる抗生物質が効果を弱めていることで、治療が益々難しくなっています。
- 抗生物質への耐性の問題は、いまでは病院内にとどまらず、医療費の高騰や致死率の上昇にも及んでいます。

概要

抗生物質は、細菌感染症の予防と治療のために用いられる医薬品です。抗生物質への耐性は、細菌がこれらの医薬品の使用に対応して変化することで発生します。

人でも、動物でもなく、細菌が抗生物質に耐性となります。この（耐性の）細菌は、人にも動物にも感染できるため、これらが引き起こす感染症は、耐性のない細菌が引き起こす感染よりも、治療を難しくします。

抗生物質への耐性は、医療費を増加させ、病院での入院期間を長びかせ、致死率を押し上げます。

世界は、早急に抗生物質の処方仕方と使い方を変える必要があります。行動を変えることなく、新しい抗生物質も開発されるとしても、抗生物質への耐性は大きな脅威となります。行動の変容には、ワクチン接種により感染症の拡大を減らす取り組み、手洗い、より安全な形での性生活、食べ物の衛生面での適切な取り扱い、などが含まれます。

問題の展望

抗生物質への耐性は、世界のどの地域も危険なレベルに達しています。新たな耐性メカニズムが出現し、世界中に拡がり、通常感染症の治療への対応能力に脅威を与えています。肺炎、結核、血液での中毒、淋病、食中毒といった一連の増え続ける感染症は、治療の際に抗生物質が効きにくくなることで、治療が難しくなり、時には治療できなくさせています。

抗生物質が、（規制）処方されることなく、人や動物に使用されていることで、耐性の出現と拡大が益々酷くなっています。また、基本的な治療ガイドラインのない国では、抗生物質が医療者と

獣医師によって余分に処方され、国全体で過剰に使用されています。

早急に取り組まなければ、我々は、抗生物質の効かない時代に向かいます。その時代では、通常の感染症や些細な傷でも簡単に生命を落とすこともあり得ます。

(抗生物質への耐性の)防止と管理

抗生物質への耐性は、抗生物質の誤用や乱用に加えて、(抗生物質への耐性の)防止と管理が貧弱なことでも助長されます。影響を軽減し、耐性を拡大しないために、(我々は)社会のあらゆるレベルで(対策に)踏み出すことができます。

個人レベル

抗生物質への耐性の拡大への防止と管理に対し、個人ができることは以下のとおりです。

- ・資格をもった医療の専門家から処方された抗生物質だけを使用すること
- ・もし、医療者が、あなたには抗生物質が必要ないと言ったならば、決して、抗生物質を要求しないこと
- ・抗生物質を使用する際には、必ず医療者の指示に従うこと
- ・決して、残ってしまった抗生物質を分け与えたり、使ったりしないこと
- ・定期的に、手洗い、衛生的に適切に扱われた食べ物、病人との濃厚な接触の回避、より安全な形での性生活、最新のワクチン接種状態の維持を行い、感染を予防すること
- ・WHO の「食品をより安全に保つ 5 つの鍵(清潔の保持、生の物と調理された物との区別、徹底した調理、安全な温度で食品の保管、安全な水と原材料の使用)」に従って、動物の健康のために成長の促進や病気発生の予防のために抗生物質を使用せず、衛生を保ちながら食品を準備すること

政策立案者レベル

抗生物質への耐性の拡大への防止と管理に対し、政策方針の立案者ができることは以下のとおりです。

- ・抗生物質への耐性に取り組むために、国の確りとした活動計画が確実に作成すること
- ・抗生物質耐性菌への感染症の調査活動を向上させること
- ・感染の予防と管理のための対策への政策方針、計画、実施を強化すること
- ・質の高い医薬品を適切に使用し、また、使用しないための規制を行い、促進させること
- ・抗生物質への耐性の影響について情報を入手しておくこと

医療専門家レベル

抗生物質への耐性の拡大への防止と管理に対し、医療専門家にできることは以下のとおりです。

- ・すべての者の手、機器、環境の清潔を厳格に維持し、感染を予防すること
- ・最新のガイドラインに従い、必要とされるときにだけ、抗生物質を処方し、投与すること
- ・抗生物質耐性菌への感染を調査チームに報告すること
- ・抗生物質の正確な使い方、抗生物質への耐性、誤用の危険性について、処方する患者に説明すること
- ・感染の予防法（ワクチン接種、手洗い、安全な性生活、くしゃみをするときの鼻と口の被い方など）について患者に説明すること

製薬企業レベル

抗生物質への耐性の拡大への防止と管理に対し、医療者ができることは以下のとおりです。

- ・新たな抗生物質、ワクチン、診断機器、その他の医療機器の研究と開発に投資すること

農業関係者レベル

抗生物質への耐性の拡大への防止と管理に対し、農業関係者ができることは以下のとおりです。

- ・必ず、獣医師の適切な指導の下に動物に抗生物質を投与すること
- ・成長を促進させたり、病気を予防したりするために、抗生物質を使用しないこと
- ・抗生物質の使用量を減らすために動物にワクチンを接種し、可能な方法があれば、抗生物質に代わる方法を用いること
- ・動植物の生産地からの食品の生産と加工の全ての段階で、適切に取り扱うことを促進し、適応させること
- ・農場でのバイオ・セキュリティ(防疫対策)を向上させ、衛生環境と動物飼育環境を改善することを通して感染を防ぐこと

最新の(抗生物質の)開発

いくつかの新しい抗生物質が開発されていますが、危険性が最大の形態の耐性菌に効果を期待できる抗生物質はありません。

人々が手軽に頻繁に旅行するようになったことに伴い、抗生物質への耐性は、全ての国、あらゆる分野での取り組みが必要となり、世界中の問題となっています。

(抗生物質への耐性の)影響

感染症が第一選択の抗生物質で治療できない場合、さらに高価な医薬品を使用しなければなりません。病期や病院での治療期間がいままでよりも長くなり、病院では医療費が膨らむだけでなく、家族にも、社会にもしばしば経済的負担を増大させることとなります。

抗生物質への耐性が現在の医学の成果を危険に曝しています。臓器移植、化学療法、帝王切

開のような手術などは、感染を予防し治療するために有効な抗生物質がなければ、はるかに危険なものとなります。

WHO の取り組み

抗生物質の耐性出現への取り組みは、WHO の優先課題となっています。抗生物質への耐性を含め、抗微生物薬への耐性に対する世界行動計画が 2015 年 5 月の世界保健機関総会で採択されました。世界の行動計画は、安全かつ有効な医薬品で、確実に感染症を予防し、治療することを目的としています。

抗微生物薬耐性についての世界行動計画は、次の 5 つの戦略を目的としています。

1. 抗微生物薬耐性への啓発と理解を向上させること
2. 調査活動と研究活動を強化すること
3. 感染症の罹患率を減らすこと
4. 抗微生物薬を適正使用すること
5. 抗微生物薬への耐性に立ち向かうために継続的な投資を確立させること

2016 年 9 月にニューヨークで開催された国連総会・首脳会議で採択された政治宣言は、多数の領域、特に、人々の健康と動物の健康、および農業の領域にまたがり、抗微生物薬への耐性の根本原因に取り組むために、広く共同歩調を取ることに責任ある公約をいたしました。WHO は、加盟国が世界の行動計画に基づいて、抗微生物薬の耐性への各国の行動計画を策定することを支援しています。

WHO は、抗微生物薬の耐性に取り組むために、数々の分野に率先して取り組んでいます。

世界の抗生物質への啓発週間 (World Antibiotic Awareness Week)

2015 年以降、毎年 11 月に「抗生物質：慎重な取り扱い」というテーマで開催され、キャンペーン週間には、世界中で長年にわたるキャンペーンが活動量を増やしています。

世界の抗微生物薬の耐性へのサーベイランス・システム (The Global Antimicrobial Resistance Surveillance System: GLASS)

WHO の支援システムが、意思決定を周知させ、現場、国、地域での行動を操縦するために(必要となる)世界レベルでの抗微生物薬への耐性に関連するデータの収集、分析、共有に関して、標準化された手順を支援しています。

世界の抗生物質の研究・開発への同盟 (Global Antibiotic Research and Development Partnership: GARDP)

WHO と顧みられない疾患への医薬品を先導する集団 (Drugs for Neglected Diseases initiative: DNDi) との共同活動である GARDP は、官民の連携を通して研究開発を奨励しています。

この同盟協定は、2023年までに既存の抗生物質の(使用)改善と新たな抗生物質の導入を加速させ、最大4つの新しい治療法を開発し、提供することを目指しています。

抗微生物薬の耐性に関する国際機関の調整グループ(Interagency Coordination Group on Antimicrobial Resistance: IACG)

国連事務総長は、国際機関どうしの調整力を向上させ、健康の保障に対するこの種の脅威に世界が効果的に行動することを確認なものとするためにIACGを設立しました。IACGは、国連事務総長およびWHO事務局長が共同で議長を務め、あらゆる領域にまたがり、関係する国連の機関、その他の国際機関、個々の専門家からの高いレベルの代表者で構成されています。

出典

WHO. Fact sheet, Media centre. November 2017

Antibiotic resistance

<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/antibiotic-resistance/en/>

このPDFファイルは、厚労省(FORTH)がWHOのファクトシート(英文)を翻訳したものです。

海外渡航を安全なものにするためにご利用下さい。

曲友(かねとも) 新道有限会社 特殊清掃事業部

<http://deo.2lala.net>